

目次

- 1・研究背景と目的
- 2・多摩市における社会変革
- 3・現在の食品スーパーとコンビニの商品・サービス
- 4・現在のコンビニのクロス SWOT
- 5・コンビニに取り入れるべきサービスと商品
- 6・今後の課題
- 7・参考文献

問題意識・目的

日本は超高齢社会を迎えている。こうした時代の変化に合わせて近年、小売や流通業においては高齢者を含めた世代毎のニーズを汲み取りながら商品やサービスの開発と事業展開を行っている。そこで、本研究では世代層別のニーズに合わせたビジネス戦略を展開する、スーパーマーケットに加え消費者の身近な小売業でかつ今後社会インフラの重要な拠点として期待されているコンビニエンスストア業界の商品・サービスに焦点を当てて調査を行い、その具体的取り組みと課題を明らかにしたうえで、学生視点から超高齢社会だからこそ提供すべき商品・サービスとは何かを考えてみたい。

内容

多摩地域（多摩大学周辺）の食品スーパーマーケット・コンビニエンスストアの商品・サービスの実態分析を行い、実地調査を通じて、商品の内容、陳列方法等を把握する。また、コンビニエンスストアについては、多摩地域以外の具体的事例も取り上げながら、最新のスーパーマーケット・コンビニエンスストアの戦略について分析する。

上述の分析を通じて、スーパーマーケットとコンビニエンスストアの各種取り組みのなかでも特徴のある事例を抽出しながら、今後高齢化社会に対応していかななくてはならず、かつ高齢者にも求められるであろうコンビニエンスストアの商品・サービスとは何か、という問いに対する答えを検討する。

結論

今回、多摩地域（多摩大周辺）の食品スーパー、コンビニエンスストアの商品・サービスを実際に実地調査を行った。その結果、あるスーパーでは、仏花を販売するなど、高齢者のニーズに対応した商品・サービスが展開されていることが見受けられた。一方コンビニでは、差別化された高齢者への商品・サービスは不足していることが分かった。

このことから、コンビに対して三つの提案を行う。一つ目は、野菜ジュレから高齢者でもおいしく食せることのできる商品開発である。二つ目は、ミドルサイズといった多様性を満たす商品の拡充、三つめは、コンパクトかつ多様化に対応が可能となる完全予約制の一時取り置きシステムの導入を提案する。